



〈連載④〉

グアムのディナークルーズ船



大阪府立大学船舶工学科助教授

池田良穂

【昨年の】 11月末に、日本外航客船協会主催のミクロネシアへの客船旅行ミッションにお供させて頂いて、グアム、ポナペ、パラオを回ってきた。美しい海が素晴らしい南太平洋の水域ではあったが、例年にない台風の当り年で、11月末にもかかわらず大型台風の発生とちょうどかちあい、航空機の欠航により一部の視察をスキップすることとなった。この台風は、このまま日本までひた走り日本を直撃するという稀に見るおそい台風となったことは御存知のとおりである。

【この】 台風のおかげで、当初視察のメインターゲットとはなっていなかったグアムに丸2日も滞在することとなり、日本に最も近い外国らしい外国ということで若者の人気を集めている観光地グアムの現状をつぶさに見る機会に恵まれた。ここで、最も興味があったのは、いわゆるリゾートホテルの機能、そこでの観光客の過ごしかた、そして人気を集めているディナー・クルーズ客船たちであった。そして、これらを十分に分析することにより、日本のクルーズ市場を拡大するための重要なキポイントがいくつか得られるように思われた。

【現在の】 グアムには年間60万人近い日本人観光客が訪れている。他の国籍の観光客は10万人程度というから、いかに日本人が多いかがご理解頂けると思う。観光客の平均滞在日数は4日弱とのこと。飛行機に乗ればわずか3時間で、とこ夏の南太平洋に浮ぶ島グアムに着けるのであるから、極めて気楽な海外旅行である。日本の旅行代理店の店頭を覗くと、必ずグアムへのパックツアーのパンフレットがおいてあり、料金も4～5日のもので10万～15万円と比較的お手頃な料金である。たまに新聞紙上に7～8万円程度のものが掲載されていることもあり、なんと5万円代という信じられないほどの料金設定のものまでである。この安さが若者を引きつける大きな魅力なのであろう。

【グアムに】 滞在してみると、昼間のマリナー・レジューを除くと、ほとんど観光スポットはなにもないに等しい。このため、グアムでの昼間の観光バスツアーは何軒もの免税店やショッピング・モールを次々と訪れる買物ツアーである。夜は、各ホテルのレストランが行なうディナー・ショーが中心で、他にはあまり魅力のあるものはない。こうした中で、ディナー・クルーズ客船が結構人気を

呼んでいる。毎日、平均8千人近い観光客が滞在しており、彼等が夜のグアムをどう楽しむかと思案しているのだから、平均滞在日数4日のうち1日くらいは今流行のディナー・クルーズに乗船しようと思っても不思議はない。60万人の観光客のうち半分が滞在中に1回は利用するとすれば、一日平均の利用客は820名。現在のキャパシティは全部で300程度であろうから、まだ拡大の可能性はありそうである。現在グアムで建設の進むいくつかのホテルが完成すれば、観光客の数もさらに伸びると予想されているから、グアムのディナー・クルーズ客船の需要もまだ伸びそうである。

さて、我々が乗船したのは「マイクロネシアン・ドリーム」という双胴の高速船タイプの船であった。グアムでディナー・クルーズを行なっている船の中では最も高級なサービスを売物にしている。建造は横浜の造船所とのことで、2層のデッキがあり、下のデッキがレストラン、上のデッキにラウンジ、オープンデッキがある。料金は、フランス料理のディナーとフリードリンクを含んで約70ドル、日本円で1万円弱である。旅客定員は150名で、当日はほぼ満船の乗客であった。後でキャプテンに、営業成績について聞くと「極めて良い業績をあげている」との答であった。

夕方、グアム内のホテルを3台のバスがマイクロネシアン・ドリームの乗客をピックアップしていく。公共の交通機関がほとんどないに等しいグアムにあっては、港までのアクセスが重要となっている。ホテルの集まるタモンから約20分ほどで、アブラ湾に面した港へ着く。ここにはマイクロネシアン・ドリームの他に、帆船型のディナー・クルーズ船など2隻が着岸していた。この日は、グアムの南方海上に台風が進んでおり、風と波がかなりきつく、珊瑚礁の外縁では大きな波が崩れていた

が、アブラ湾の中には波も侵入してこず大変静かであった。

バスが到着すると、船員やショーのダンサーなどが出て乗客を迎えてくれる。まず、レストランのテーブルが割当てられ、救命ジャケットの着用方法の説明などがある。船が出港すると、上のデッキから沈みゆく夕日を楽しむ。屋間の暑さもおさまり、海上の風は心地良い。出港後30分ほどして食事が始まる。食事の内容はまあまあ。サービスもそこそこ。食事の後にレストランに設けられた舞台上でマイクロネシアン・ショーが行なわれる。なかなか一生懸命で好感の持てるショーであった。

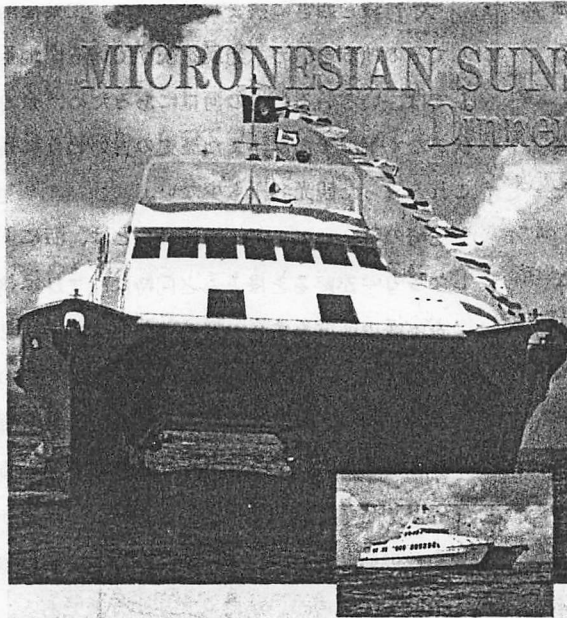
ショーが終るとほとんど同時に、アブラ湾の中をグルグル回っていた船が棧橋に到着。約2時間半のディナー・クルーズを終了した。下船の時には、乗組員とダンサーが並んで一人一人と握手。ラストインプレッションを少しでも良くするための演出である。日本の船のように、いささか慇懃無礼に頭を下げるのではなく、にこやかに別れの握手をするのがいかにもアメリカ風である。

グアムでのディナー・クルーズは、我々の乗ったマイクロネシアン・ドリームも含め、比較的ラフなサービスを売物にする船がほとんどである。これは、リゾート地としてのグアムの特性に合わせたものと考えられるが、日本の主都圏から来る人々にとって、例えば東京湾のグルメ船に比べるといささかギャップが大きいようにも思われた。もう少し高級感に溢れたディナー・クルーズ船があれば大きな人気を呼ぶようにも思われた。屋間のリゾートっぽい生活とは違ったフォーマルっぽい時間も、旅行全体のアクセントとして喜ばれるように思う。

また、現在グアムにやってくる観光客をター

ゲットとした、グアムを起点とする数日の本格的なショート・クルーズの可能性も大きいというのが筆者の感想であった。これが、手軽なグアム旅行に高級感、リッチ感を付加した時、各年代層にとっての新しい魅力となるように思われる。日本の本格的な高級クルーズ客船オセアニックグレイス

が、今年の1月から2月にかけてグアム起点のクルーズを実施する。このクルーズの料金は、一日3～4万円と、このグレードの船にしては極めて安い。まさにリーズナブル・プライスを設定したことになる。この企画は、ぜひとも成功して欲しいものだ。



グアム アブラ港発 MICRONESIAN SUNSET Dinner & Show Cruise

サンセットクルージング

紺碧の海に映える白いカタマランクルーザー。心地よい潮風に吹かれながら、水平線にくりひろげられる空と雲、夕日の壮大なドラマをお楽しみください。

ミクロネシアンショー

ミクロネシアの島々に伝わる音楽とダンス、色鮮やかなコスチューム。海面に流れる南国のメロディ、思い出のひとつを――

船上フルコースデイナー

「黄昏」、「夏の日の思い出」、「魅惑の瞬間」全て船上デイナーのために用意された料理メニューです。レストラン「クラレット」のシェフが腕をふるった自慢のフルコースとお好きな飲物をご満喫ください。



ミクロネシアンドリーム号：環航(カタマラン)クルーザー 全長34m、全幅12m、最大速力16ノット。

予約、問合せは、グアムのホテル内各ツアーデスクへ

